

泡の力で**効果的**に広がる

水生系不快害虫用殺虫剤

ボンフラン

ユスリカ幼虫、チョウバエ幼虫等の駆除

ボンフランは水溶性の有効成分を泡の力で
拡散させるので水域に生息するユスリカ幼虫等に
素早く効果を発揮します。

本剤は魚毒性が低く、鳥獣類にも毒性が低いので
野外の現場にも安心してご使用できます。

安心して使用できます。

ボンフランの2大特徴

1 低薬量で有効濃度
にできる発泡錠

発泡錠は水中の害虫が生息する低域から中域までを一定時間、優先的に有効濃度に保つことができます。また流水内においてもゆっくりと一定した量が溶解するため、効果的に殺虫することが出来ます。

2 少量使用や配布に便利な
個別包装

ボンフランは必要な分だけを使用できる個別包装なので、長期保存による変質の心配がありません。また、5袋連なってまとまっているので数えやすく、分けて配布するのにも適しています。

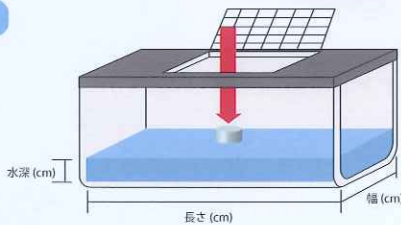


水生系不快害虫用殺虫剤 ポンフラン

- 有効成分 ジノテフラン
- 適用害虫 ユスリカ幼虫、チョウバエ幼虫等の水性系不快害虫
- 用法及び用量
 - 適用場所
雨水枡、汚水槽、浄化槽、用水路、排水口、水溜り等
 - 使用量
水量100～200Lに対して本剤1錠
 - 使用間隔
ユスリカ類 3週間～1ヶ月に1回程度
チョウバエ 10日～2週間に1回程度
その他水性系不快害虫は、幼虫期間を参考にしてください。

使用量の計算方法

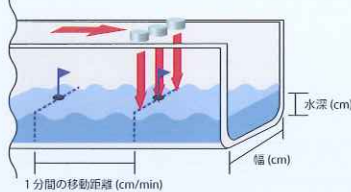
雨水枡、汚水槽



$$\frac{\text{幅 (cm)} \times \text{長さ (cm)} \times \text{水深 (cm)}}{100,000} = \boxed{} \text{錠}$$

ピットの幅と長さ、ならびにピット内に循環している水の深さを測り、上記の式に当てはめると本薬剤の使用量が計算できます。使用にはまんべんなく行き渡る様に1錠ずつ間隔をあけて投下してください。遮蔽物で均一化が難しい場合でもピット内に水流がある場合は溶解した有効成分がゆっくりと全体に拡散します。この場合、薬剤は少し多めに使用するとより効果的です。

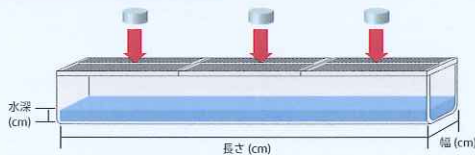
用水路等の水流のある場所



$$\frac{\text{幅 (cm)} \times \text{水深 (cm)} \times \frac{\text{1分間の移動距離 (cm/min)}}{100,000} \times 10 \text{分}}{100,000} = \boxed{} \text{錠}$$

水流がある場合は、その流速にそった量を投下することが大切です。まず、用水路の幅 (cm) と水深 (cm) を測り、次に浮きを水面に流して1分間の移動距離を測ります。本薬剤は10分程度で1錠が溶けるようになっていますので、上記の式に当てはめると本薬剤の使用量が計算できます。本薬剤の使用は流れに対して垂直な線状に間隔をあけて投下してください。

店舗内のグリストラップ、排水溜り



$$\frac{\text{幅 (cm)} \times \text{長さ (cm)} \times \text{水深 (cm)}}{100,000} = \boxed{} \text{錠}$$

グリストラップの幅と長さ、ならびに循環する水の深さを測り、上記の式に当てはめると本薬剤の使用量が計算できます。全体に均一になるように1錠ずつ間隔をあけて投下してください。長時間、対象害虫が薬剤と接触できる様、閉店後の水流の変化が小さくなる時に使用するとより効果的です。また、コバエ幼虫等は周辺についているスカムや汚れに潜り込んでいるので、薬剤を使用する前にブラシでグリストラップの壁面の汚れを擦り落とした後、薬剤を使用するとより効果が上がります。

安全性

- 1. ジノテフランの哺乳動物に対する安全性
 - 1) 急性経口毒性: ラット L D50 2,804mg/kg♂
2,000mg/kg♀
 - 2) 急性経皮毒性: ラット L D50 >2,000mg/kg
- 2. ジノテフランの環境に及ぼす影響
 - 魚毒性: コイ L C50(96h) >100mg/L

